コード：18-NPF-002

2019年5月10日

公益財団法人 庭野平和財団　2018年度活動助成報告書

北東アジアの平和構築に寄与する「大学生交流」の基盤づくり

■報告者
KOREAこどもキャンペーン(Relief campaign committee for Children, Japan)
共同代表：茂田真澄（アーユス仏教国際協力ネットワーク　理事長）
今井高樹（日本国際ボランティアセンター　代表理事）
連絡先：〒110-0005　東京都台東区上野5-3-4　クリエイティブOne秋葉原ビル6F
TEL 03-3834-9808(宮西有紀)

【1】活動の目的と背景

KOREA こどもキャンペーンは、1995 年に朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)で起きた自然災害の緊急支援のために結成され、人道支援キャンペーンとして活動する過程で、日朝間での相互理解不足による壁を痛感し、2001 年から子どもの絵画交換とその展示を通した相互理解のプログラム「南北コリアと日本のともだち展」を他団体とともに実施しているほか、2012年からは日本の大学生の訪朝による「日朝大学生交流」を試験的に実施してきた。

団体の目的に、**「朝鮮民主主義人民共和国のこどもたちへの持続的支援と、日朝両国の友好親善、21世紀の北東アジアの平和構築に市民の立場として寄与する」**ことを掲げている。この平和構築には対話の姿勢が不可欠であり、対話の場としての「市民交流」の機会を増やすこと、そこに北朝鮮を含めていくことが、現状改善の手段と考えている。

【2】活動計画と実施概要

2018 年の朝鮮半島は、平昌オリンピックへの北朝鮮の参加、板門店での南北首脳会談、シンガポールでの米朝首脳会談、さらに韓国大統領の平壌訪問と融和に大きく舵を切った。しかし、南北融和の一方で、日韓間で不協和音が生じるなど、地域全体の情勢は未だ不安定である。

そのようななかで進めた日朝の大学生交流は、平壌の大学側との関係構築が進み、事前打ち合わせを経て双方の希望を取り入れたプログラムの実施が可能になりつつある。2017年は大学生による交流が中断したが、朝鮮半島の緊張緩和の流れに後押しされ、2018 年は日本から大学生 6 名が訪朝し、また新たに 1 名の大学教員が訪朝に参加するなど協力者も増やすことができた。

1）同交流を実施するため、事務局で実務を担う人材を2名確保。

実務を担う人材を 2 名（※）配置した。これにより、情勢が大きく動いたなかでも、事

業がよりスムースに運営でき、ほぼ毎月の勉強会、報告会を実施することができた。
※日本国際ボランティアセンターからの出向１名（交流プログラム実施に向けた会議開催、行事運営事務、資料作成、会計管理などを担う担当者）と、業務委託１名（交流事業の広報、参加者募集と管理、関係者および韓国や中国の協力団体との連絡、資金獲得を担う担当者）。

２）子ども絵画交流と大学生交流を実施。

初年度の大学生交流は、過去の交流参加者などを少人数同行しての情報収集や人的関係づくりを計画していたが、想定以上に情勢が大きく前進したため、主軸となる朝鮮訪問の比重を高めて「東北アジア大学生平和交流プログラム」を策定、東京・大阪で試行した。この試行（トライアル）をもとに参加学生がより理解を深め、継続的に関われるプログラムや、体制を考えることができた。また、日本国内での発信の機会も逃さず活動が出来たが、今後の資金獲得に関する情報収集までには力が及ばなかった。

a. 経験共有、協力者へのヒアリングを行いながら、プログラムを策定。
事務局長・新事務局がこれまでの経緯を踏まえたうえで、大学教員や協力者のサポートを受けて、プログラムを策定しながら進めた。2018 年度は、全 5 回の勉強会（フィールドワークを含む）と、朝鮮訪問、3 回の一般向け報告会、韓国研修をトライアルとして実施した。

b.大学教員によるプログラムのサポート。
協力者に紹介いただいた方や、日朝の大学生交流に関心を持っている大学教員が、勉強会の講師、訪朝時の大学生ワークショップでのコメンテーター、報告会でのファシリテーターなどを務めて、本プログラムをサポートした。それらの機会を通じて、参加学生に「質」を還元できるようにした。

３）団体内での方向性の再確認。

体制や情勢の変化があったため、あらためて団体内で以下のとおり方向性を確認した。①人と人が出会い交流する場を作る（活動：大学生交流、絵画展）、②きちんとした情報/歴史認識のもとで議論する場を作る、③自然災害があった場合等に緊急救援を実施する。

■別添資料

活動詳細については、別添資料を参照。

【別添 1】大学生平和交流プログラムについて
【別添 2】大学生平和交流プログラム 2018 実施内容
【別添 3】活動写真
【別添 4】参加学生感想
【別添 5】2018 メディア掲載

【3】活動の成果

1）「大学生平和交流プログラム」参加者のコミットメントの高まり

これまでの課題として、学生が平壌での交流のみに参加しその後につながらない点があったが、年間をとおして勉強会と交流が一体となった「東北アジア大学生交流プログラム」を策定したことで、「訪朝後」も参加学生に対して、学びと経験を共有する場を提供出来た。特に、大阪で実施したコリアンタウンでのフィールドワークでは、在日コリアンや朝鮮学校など、「日本国内での生きづらさ」という問題にも関心が広まった学生もあらわれた。その後、外部で行われる講演会へ積極的に参加し自ら学びを深めていく学生や、就職から大学院進学へ進路変更した学生も出始めている。

また、年間を通したプログラムにしたことで、過去の参加者もこの場に顔を出し、現在の参加者とこれまでの経験を共有しあう機会も増えている。これらを通して、「北東アジアの平和構築に市民として寄与する」層が少しずつ厚くなっている。

2）事業実施「基盤」強化の兆し

パートタイムではあるものの、「専任」の事務局を置いて活動した初めての1年となった。これまでの担当者が長年事務局を担っていたために明文化されていないこともあり、走り出しの 1 年は経験共有や引継ぎが上手く出来ない面も一部あったが、あらためて、団体で方向性を確認したり、関係者で役割分担を話し合うことで、2年目以降の体制をより強化すべく整備している。

前述のとおり、交流プログラム参加者のなかにも変化が見られる学生も現れたため、2年目は「学生リーダー」として本プログラムにコミットメントしてもらう。また、「日朝大学生交流」の過去の経験者にも 2019 年度から事務局を補助してもらうことになっている。

このように、徐々にではあるが、関わる人材の広がりも見えつつある。

【4】今後の課題

計画では、訪朝に同行するなど交流をサポートする大学教員のプラットフォームをつくり、プログラムをともに牽引してくださる方を増やすことを想定していたが、勉強会や訪朝の同行などで十分なサポートを得られることがわかった。今後はより適切なサポートを得られるように、こちらでプログラムをしっかり検討して固めたうえでアドバイスを求めていきたい。

また、より継続的に多くの学生が学びを得て経験を共有する場を提供するには、「資金調達」が大きな課題である。2019 年度は、事務局のなかで具体的な計画をたてることで、本プログラムの本格実施に必要なファンドレイジングのできる体制を目指す。

以上

【別添資料 1】
2018 年 5 月作成(2019 年 2 月版)
交流プログラム参加希望者に配布

東北アジア大学生平和交流プログラム

2001 年より、絵とメッセージの交換で東北アジアの子どもたちを繋いてきた「南北コリアと日本のともだち展」。
その発展版として 2012 年から行なっている「日朝大学生交流」では平壌で日本語を学ぶ朝鮮の学生たちと日本の学生たちが交流してきました。
このたび、「日朝大学生交流」は、「日朝」を主軸とした大学生交流に、日韓・日中も含め、大学生が重層的に交流しながら、平和な東北アジアを作っていく若者リーダーの土台づくりとなる交流・勉強会をセットで実施する、年間の人材育成プログラム「東北アジア大学生平和交流プログラム」へ生まれ変わりました。

【目的】
冷戦構造が依然として残っている東北アジアで、若者たちの出会いの場をつくり、「継続した対話」から「交流による信頼関係の醸成」をおこないながら、東北アジアの平和構築に関心を持ち、主体的に寄与する人材を育てていくことを目指します。この目的達成のために、「日朝」を主軸とした大学生交流に、日韓、日中も含め、大学生が重層的に交流しながら、平和な東北アジアを作っていく若者リーダーとなるための土台づくりとなる交流・勉強会のプログラムを実施します。

【概要】
◎本プログラムは年間をとおし、勉強会と学生交流がセットで計画されたものです。
◎東アジアの平和に関心を持っている大学生に勉強会(東京・大阪)を実施し、その参加学生の中から、朝鮮・韓国、各地での交流参加者を確定します。
◎「交流のみ」の参加は出来ません。(勉強会だけの参加は可能です。)
◎日本国内で、本プログラム主催の報告会を開催します。
◎「南北コリアと日本のともだち展」の東京展・大阪展でもその成果を発表します。
◎年間の活動報告書を作成します。

【実施主体】 KOREA こどもキャンペーン
【お問合せ】 ◎KOREA こどもキャンペーン　事務局
〒110-0005　東京都台東区上野 5-3-4　クリエイティブ One 秋葉原ビル 6F
日本国際ボランティアセンター(JVC)内
TEL:03-3834-9808　　メール:rccj.sec@gmail.com
◎日本国際ボランティアセンター(KOREA こどもキャンペーン構成団体)
コリア事業担当　宮西　TEL:03-3834-2388　メール:miyanishi@ngo-jvc.net

【日朝大学生交流の経緯】

2011 年 「ともだち展」訪朝時に、大学生が同行。平壌外大日本語学科との交流を提案。
2012 年 第 1 回交流 平壌外大校内で互いの学生生活を紹介。交流:1 時間弱。
2013 年 第 2 回交流 平壌市内を一緒にまわりながら交流。懇談会を実施。交流時間:半日。
2014 年 第 3 回交流 平壌外大訪問後、平壌市内を回りながら双方の学生たちの視点で「ピョンヤンの歩き方」(冊子)を作成。交流:1 日半。
2015 年 第 4 回交流 平壌外大訪問、市内観覧、竜岳山で初のワークショップ。交流:2 日半。
2016 年 第 5 回交流 市内を観覧、竜岳山ワークショップを実施。交流:半日 x3 日。
2017 年 日本人学生の訪問は中止 実行委員が外大生との平壌市内観覧、大学訪問を実施。
2018 年 第 6 回交流 平壌外大訪問、市内観覧、竜岳山ワークショップを実施。交流時間:半日 x2 日+1 日(ワークショップはほぼ終日)。

【平壌外国語大学】

・学部:5 学部 英語学部 中国語学部 ロシア語学部 民族語学部 同時通訳学部
※扱っている外国語は 23 言語。日本語専攻は民族語学部に所属
・学生数:英語学部 200 人/中国語学部 100 人/ロシア語学部 80 人/日本語専攻 40 人
●民族語学部ー日本語専攻
・学生数:20～30 人前後(1～5 年生) ※1990 年代は最盛期で 140 人。

【2018 年度 訪問日程】

月/日	訪問先、活動内容ほか
8/20(月)	PM:羽田空港集合、移動(羽田/関西→北京)
8/21(火)	AM:北京空港で朝鮮ビザ受け取り/PM:移動(北京→平壌)
8/22(水)	AM:市内見学(主体思想塔)、<u>【大学生交流①】 平壌外国語大学訪問</u> PM:＜Aグループ＞チャンギョン小学校、人民大学習堂 ＜Bグループ＞ルンラ小学校(絵画こどもワークショップ)
8/23(木)	AM:<u>【大学生交流②】 万景台、平壌教員大学、玉流館、地下鉄</u> PM:＜Aグループ＞社会科学院との面談、万景台学生少年宮殿 ＜Bグループ＞:ルンラ小学校(絵画展示準備)
8/24(金)	AM:＜Aグループ＞見学(ジャンチョン野菜専門協同農場、柳京眼科総合病院) ＜Bグループ＞ルンラ小学校(絵画展示準備) PM:ルンラ小学校展示会・交流会
8/25(土) 先軍節	<u>【大学生交流③】 党創建記念塔、平壌文化展示館、龍岳山ワークショップ</u> 夕方:市内見学
8/26(日)	市内見学(中央動物園、凱旋門、ムンスプール場、祖国統一三大憲章記念塔)
8/27(月)	板門店、開城(善竹橋、スンヤン書院)
8/28(火)	移動(平壌→北京→羽田/関西)

東北アジア大学生平和交流プログラム 2018 年度実施内容

【2018 年度スケジュール(2018 年 4 月-2019 年 3 月)】

年月	実施内容
4 月	「大学生平和交流プログラム」企画立案(協力者:米田伸次・李明哲、事務局:筒井、渡辺) 大学生交流参加者集め
5 月	**5/30 第 1 回勉強会キックオフ(東京)** 講師:李明哲(在日コリアン青年連合事務局・関西学院大学非常勤講師) 「ヘイトスピーチから日本と朝鮮半島との問題を考える」 ヘイトスピーチに関する動画を見て、この間の流れの説明を聞いた後、参加者全員でブレインストーミング。 本プログラムについて説明。 場所:台東1丁目区民館 参加学生:6 名
6 月	**6/23 第 2 回勉強会(東京)** 講師:石坂浩一(立教大学教員) 「日本の植民地支配の歴史をふりかえる」 日本の近現代史から、参加学生が各自関心を持っていることがらについて事前学習したものを発表し、意見交換をおこなった。発表の内容は従軍慰安婦問題、満州、植民地時代の日本語教育など。 場所:JVC 事務所 参加学生:7名
7 月	**7/1 第 1・2 回勉強会(大阪)** 講師:李明哲 第 1 部「ヘイトスピーチから日本と朝鮮半島との問題について考える」 ヘイトスピーチに関する話を聞き、意見交換を行った。 第 2 部「東北アジア近現代史のおさらい」 18 世紀末から 1952 年サンフランシスコ講和条約まで日本と朝鮮半島の歴史について学んだ。 場所:KEY 事務所 参加学生:7 名 **7/21 第 3 回勉強会(東京・大阪合同)** 講師:石坂浩一、水本和実(広島市立大学教授) 「南北の分断、北朝鮮の社会体制・状況について知る」 「『北朝鮮の非核化』について 朝鮮半島と核兵器」 「『日朝平壌宣言』を確認してみよう」 上記についての講師によるお話と質疑応答、意見交換をおこなった。 ※8 月訪朝事前学習も兼ねる 場所:JVC 事務所 参加学生:7名
8 月	**◎平壌訪問(8/20～28)** (日朝大学生交流プログラム実施 3 日間) 1 日目 平壌外国語大学訪問、見学、自己紹介、歓談 2 日目 市内見学(万景台、主体思想塔、平壌教員大学、玉流館、地下鉄) 3 日目 竜岳山にてワークショップ

	テーマ「信頼関係を築くためには」 参加学生:6 名(ほか教育者・事務局など 11 名)
9 月	**9/15 訪朝学生 MTG(関東組)@JVC** 「訪朝のふりかえり」 ① 共通点を発見することはできたか？ ② お互いの話し合いのテーマについてあなたは何を相手に話しましたか？ ③ あなたの北朝鮮の見方は、訪朝の前後でどう変わりましたか？ ④ あなたは訪朝前に、北朝鮮の学生にぜひ話したい、メッセージしたいことはありましたか？ ⑤ 日本の学生たちに伝えたいことは？ 事務局の進行により上記項目に沿ってふりかえりをおこなった。 場所:JVC 事務所 参加学生:4 名 **◎チェジュ島訪問:ピースリーダーキャンプ(9/13～19)** 韓国の協力団体オリニオッケトンム主催のキャンプに事務局が参加。 小中学生向けのプログラムのため、大学生は参加できず(参加枠なし)。 **■9/29 大学生交流報告会(内部 大阪)** 現地の様子や「心に残った一枚の写真」を紹介しながら報告した。 場所:KEY 事務所 説明:筒井、報告者:訪朝学生 2 名 来場者 9 名
10 月	**■10/6 大学生交流報告会(内部 東京)** 現地での交流の様子を映像で紹介し、9/15 におこなったふりかえり内容を中心に報告した。 場所:JVC 事務所 説明:宮西、報告者:訪朝学生 5 名 来場者 20 名 **◎延吉訪問:ワークショップ(10/12～16)** 事務局、大学生ボランティア 1 名が参加。 14 日:延吉市少年児童図書館でおこなわれた、子どもたち(朝鮮族)が延吉の名所を描くワークショップに日本の学生がボランティアとして参加し、子どもたちをファシリテートした。 15 日:延辺大学で日本語専攻学生と交流、キャンパスを見学。
11 月	**11/10～11 第 4 回勉強会(東京・大阪合同)** フィールドワーク「日本と朝鮮半島の歴史を学ぶ」 10 日:在日コリアン一世のお話(ヤンウォンヒさん) 在日コリアンとの意見交換会で学生たちは一口に「在日」と言っても様々な立場の人たちがいることを知った。 11 日:生野コリアタウンを歩き、日本と朝鮮半島の歴史を歩く ふりかえり、意見交換。 場所:KEY 事務所 進行:李明哲、宋悟(クロスベイス) 参加学生:9 名(ほか事務局など 6 名)

12月	**■12/8 大学生交流報告会(東京:一般向け)** 平壌に同行した堀潤さんがビデオ映像を見せながら訪朝の様子を報告した後、事務局より「東北アジア大学生平和交流プログラム」と「南北コリアと日本のともだち展」の活動を紹介。学生は「思い出の一枚」の写真を見せながら自己紹介、堀さんによるファシリテートのなか、平壌の学生と何を話し、何を感じたのかを語った。 場所:台東区民会館 司会:堀潤(ジャーナリスト) 説明:宮西、報告者:訪朝学生 6 名 来場者:50 名(うち 10 名が大学生)
1 月	**1/27 第 5 回勉強会(東京・大阪合同)** ワークショップ「この 1 年を振り返る」 この 1 年のプログラムをふりかえり、どんなことを感じたか、何を学んだのか、お互いの経験を話し合った。 場所:JVC 事務所 進行:李明哲、ゲスト:米田伸次(日本ユネスコ協会連盟顧問) 参加学生 3 名(ほか事務局 5 名)
2 月	**■2/9 大学生交流報告会(東京展)** ギャラリートーク「大学生が開く東アジアの未来」 事務局より本プログラムについて紹介後、目加田さんを聞き手に訪朝学生が感じた課題や学びを話した。 場所:アーツ千代田 3331 司会:目加田説子(中央大学教授) 説明:宮西、報告者:訪朝学生 6 名 来場者:65 名
3 月	**■3/10 大学生交流報告会(大阪展)** ギャラリートーク「私たちの思い描く東アジアの未来」 訪朝で出会った平壌の大学生との話、若い世代が思い描く東アジアの未来について、それぞれの考えを会場の人々も交えて意見交換した。 場所:大阪国際交流センター 司会:李明哲 説明:筒井、報告者:訪朝学生 4 名 来場者:35 名 **◎3/15～19 韓国訪問:交流体験** コーディネーター:石坂浩一 石坂浩一先生がコーディネートするプログラムに参加したトライアル交流。聖公会大学や北韓大学院大学の学生との交流、韓国のベトナム参戦を問い直す市民団体ナワウリとの対話、協力団体であるオリニオッケトンム訪問、ハンギョレ新聞社や毎日新聞ソウル支局見学、臨津閣や江華島見学をとおして歴史を学んだ。 参加学生 2 名(ほか事務局 2 名)

以上